



*Free your heart
of borders!*

公益財団法人 佐賀県国際交流協会
創立 **30**[👑] 周年記念誌

Saga Prefecture International Relations Association 30th Anniversary Report



30th

もくじ

■ごあいさつ

佐賀県国際交流協会 理事長 黒岩 春地 P 02

■祝辞

佐賀県知事 山口 祥義 P 03

自治体国際化協会 理事長 岡本 保 P 04

JICA 九州 所長 植村 吏香 P 05

■協会の概要 P 06

■役員紹介 P 08

■外国人住民の推移 P 09

■30年のあゆみ P 10

■インタビュー P 16

■創立30周年記念式典 P 18

■功労者の紹介 P 19

■事業紹介

〈A コミュニケーション支援〉 P 20

〈B 生活支援〉 P 22

〈C 多文化共生の地域づくり〉 P 24

■さが多文化共生センター紹介 P 26

■賛助会員案内 P 27

■SPIRA オリジナルソング P 28



Free your heart of borders! 心の国境をなくそう!

黒岩 春地

公益財団法人佐賀県国際交流協会
理事長

今から 30 年前、1990 年、協会は、県、市町村、民間の御協力により設立されました。1990 年は、イラク軍がクエートに侵攻した年です。翌年、湾岸戦争が起こりました。あれから 30 年。佐賀を取り巻く国際情勢が大きく変わる中で、協会は、沢山のの人に支えていただき、30 周年の節目を迎えることができました。心から感謝申し上げます。

30 年前、協会がスタートした時、私は県庁国際交流室の職員でした。スタートしたばかりの協会と一緒に、毎日動き回っていたのを懐かしく思い出します。当時、佐賀県に住む外国人は、1,799 人。今は、その 4 倍の 7,031 人の外国人の皆さんが、この佐賀県に住んでいます。100 人に一人が外国人県民。県内どこにいても外国人を見かけるようになりました。まさに隔世の感があります。

協会の活動の柱も、「国際交流」から「多文化共生」に大きくシフトしました。今は、「佐賀県内に住む外国人の皆さんとどう向かい合うか」、「外国人県民の皆さんの力を地域づくりにどう生かすか」が、メインテーマになってきています。2019 年 10 月には、県からの委託を受け、協会内に「さが多文化共生センター」をオープンしました。外国人からの相談や、外国人と関わる県民からの相談を、毎日受けています。

Free your heart of borders! 心の国境をなくそう!

これは、協会のスローガンです。

多文化共生—国籍や文化や宗教が違う人々が、互いに認め合い、ともに生きていくことを目指す—ということを一言で言えば、

Free your heart of borders! 心の国境をなくそう!

ということだと思います。

外国人県民を仲間として迎え入れ、ともに佐賀の地域づくりに励んでいきたいと思っています。

今後とも、皆さまのご支援ご協力、よろしくお願いいたします。

祝 辞



人を大切に、 世界に誇れる佐賀づくり

山口 祥義

佐賀県知事

公益財団法人佐賀県国際交流協会が創立 30 周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

設立以来、本県の国際化に力を尽くしてこられました歴代理事長様をはじめ、全ての関係者の皆様に対し、深く敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

急速なグローバル化に伴い、近年の佐賀県においては海外からの来訪者が増加し、また、在住外国人は県人口総数の 1% 近くを占めるようになりました。こうした中、貴協会では、多言語での相談対応や日本語教室への助成、災害など非常時の講習会を行うなど、外国人の方々が佐賀で安心して暮らしていくためのきめ細やかな支援をされています。また、異文化理解講座やさが国際フェスタなど、佐賀に暮らす外国人のみなさんの言語や文化を紹介する機会は、様々な背景を持つ人たちが交流し、互いを理解しあう場となっているように思います。

2020 年は、新型コロナウイルスの感染が広がり、私たちの暮らしに様々な影響がありました。貴協会が、県内に住む外国人の方々の協力のもと、それぞれの言葉で同郷の外国人の方々に元気を送った「スパイスプロジェクト」は、18 言語まで広がり、外国人の方々に寄り添った活動として、県外からも注目されたと伺っています。迅速で現場の状況に即した活動の数々は、日頃から、異なる国の文化を理解し、人と人とのつながりを大事にしたいという思いで、何ができるかを常に考えていたからこそできたことなのではないでしょうか。皆さまの存在は、異国の地に暮らす方々にとってどれだけ心強い支えとなったことでしょう。

佐賀は、太古の時代から、海外の文化や技術を積極的に取り入れ、歴史的に重要な役割を果たしてきました。異なる海外の文化や技術をこの地に根づかせ発展させてきたこの地は、今もなお、人と人とのつながりを大切にしながら、様々な文化や知識、技術を取り込んで発展を続けています。

「人を大切に、世界に誇れる佐賀づくり」を県政の基本理念として、私も、一人ひとりの幸せを大切にする地域づくりに取り組んでまいります。

これからも、異なる文化の人たちが互いに理解し助け合う多文化共生社会を、そして誰もが安心して暮らせる社会を、ともに創り上げていきましょう。

結びに、佐賀県国際交流協会の今後ますますのご発展を心からお祈り申し上げます、お祝いの言葉といたします。



公益財団法人佐賀県国際交流協会 創立30周年を祝して

岡本 保

一般財団法人自治体国際化協会
理事長

公益財団法人佐賀県国際交流協会が、創立30周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。また、この30年間、貴協会が地域の国際化の推進に多大な貢献を果たしてこられましたことに対し深く敬意を表します。

近年、外国人支援や多文化共生における課題は、ますます多様化しています。

そのような中、貴協会は、先進的な取り組みを数多く展開されています。特に災害時における外国人支援では、平時からの繋がりを大切にして、行政や関係団体が連携する佐賀災害支援プラットフォームへの参加や、外国人住民と協働して災害対応ガイドブックを作成し、災害に向けた訓練研修も着実に実施されたり、また、この新型コロナウイルス感染症の感染拡大時には、いち早く多言語で特別給付金の申請方法を解説する動画を公開するなど、常に外国人住民の視点に立った施策に機動的に取り組んでこられました。

外国人住民が日本人住民と共に地域づくりを推進していくにあたり、貴協会の果たす役割は、今後、ますます重要なものとなってまいります。

貴協会が、地域の国際化の推進拠点として、この30周年を礎になお一層の発展を遂げられますことを心から祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。





30年間にわたる国際化へのご貢献と未来に向けて

植村 吏香

JICA 九州 所長

佐賀県国際交流協会様の創立 30 周年、誠におめでとうございます。

この 30 年間に貴協会がご活躍されたことで、佐賀県内でのさまざまな国際協力・交流事業が大きく進展し、多文化共生社会の実現に貢献されてきたことは本当に素晴らしい事だと思っております。これまでのご活動に深く敬意を表したいと存じます。

私ども JICA 九州センターは、これまで佐賀県において様々な国際協力・交流活動を実施するにあたって、貴協会様から多大なご支援・ご協力を賜って参りました。また、私どもの佐賀県の窓口として、貴協会に長年にわたり国際協力推進員を配置させていただいていることに対しても非常に感謝しております。

佐賀県の皆様は、明治維新を主導されるなど、進取の気性に富む県民性でいらっしゃいますが、これからますます外国の方が増えて来られることが予想される中では、貴協会様の果たされる役割はより一層大きくなっていくものと考えております。私ども JICA との連携につきましても是非引き続きよろしくお願いしたいと存じます。

結びとなりますが、貴協会の今後ますますのご発展とご活躍を心より祈念し、簡略ながら私からのお祝いの言葉とさせていただきます。



佐賀県国際交流協会の概要

公益財団法人佐賀県国際交流協会は、世界に開かれた佐賀づくりをめざして、県、市町村、民間企業、県民の方々の協力により、県民総参加の国際交流を推進するための中核組織として1990年（平成2年）2月7日に設立され、2013年（平成25年）4月1日に公益財団法人となり、2020年に創立30周年を迎えました。

基本方針

1. 多文化共生の地域づくりの推進

- 互いの文化的な違いを認め、対等な関係で尊重し合い、共に生きる地域社会を実現します。
- すべての国連加盟国で採択された持続可能な開発目標（SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS：SDGs）を目指し、外国人住民を含めた県民誰もが住みやすく、その能力を活かして地域社会の一員として活躍できる環境の充実を図ります。

2. グローバル人材の育成及び国際交流団体等の活性化

- 次の世代を担う若い世代や県内のグローバル化を先導する人材等を対象に、幅広い知識や技能等を習得する機会を提供します。
- 国際交流や国際協力、在住外国人の支援を推進する団体の創設や事業支援などを行うことで、グローバル社会で活躍する国際性豊かな人材の育成や団体の活性化を図ります。

3. 多様な主体との連携・協働

- 県、市町、関係機関・団体、CSOなど様々な主体とネットワークを築き、密に情報共有を行いながら、各主体と連携・協働して、様々な国際交流・国際協力活動の充実及び効率化を図ります。

主な取り組み

A コミュニケーション支援

在住外国人支援団体との連携により地域情報を多言語化およびやさしい日本語化し、行政・生活情報の提供を推進しています。

- 国際交流・協力情報誌発行（やさしい日本語版）
- 日本語グループ支援
- 日本語スピーチコンテスト
- 日本語ボランティア養成講座
- 「やさしい日本語」講座



B 生活支援

医療、保健、福祉、教育等様々な相談を受け、関係機関との連携により対応しています。また、災害に備え外国人を対象にした防災訓練や、災害多言語支援センターの運営準備にも力を入れています。

- 在住外国人生活支援
 - ・生活相談、専門家相談
 - ・健康相談
 - ・医療通訳
- 子ども日本語学習サポーター等派遣
- 防災セミナー



C 多文化共生の地域づくり

日本人も外国人も対等な暮らしやすいまちづくりを目指し、地域社会に対する多文化共生の意識啓発や、外国人住民の自立と地域社会への参画をサポートしています。

- 地球発見隊出前講座（多文化共生理解出前講座、国際協理解出前講座）
- 国際交流・協力情報誌発行（日本人向け）
- ランチャイム English セミナー
- ボランティア啓発・推進
- 多文化共生等助成事業
- さが国際フェスタ
- 多文化共生情報発信事業（ラジオ放送、SPIRA フォトコンテスト）



役員紹介

役員名簿

※ 2021 年 3 月 31 日現在

評議員

12 名

寺本 憲功	国立大学法人佐賀大学 国際交流推進センター長
峰 英太郎	佐賀県商工会連合会 会長
江島 秋人	佐賀県中小企業団体中央会 専務理事
古賀 孝博	佐賀県農業協同組合中央会 専務理事
中島 博文	一般社団法人佐賀県建設業協会 専務理事
井手 雅彦	一般社団法人佐賀県労働者福祉協議会 理事長
高島 忠平	公益財団法人佐賀県芸術文化協会 理事長
山口 七重	佐賀県地域婦人連絡協議会 会長
白濱百合子	佐賀生活文化交流会 代表
西岡 豊	佐賀県高等学校PTA連合会 会長
前島 梅子	日本語ネットワーク佐賀 代表
井崎 和也	佐賀県地域交流部国際課 課長

監事

2 名

江副 元喜	佐賀県市長会 事務局長
宮崎 珠樹	佐賀県商工会連合会 専務理事

理事

13 名

黒岩 春地	公益財団法人佐賀県国際交流協会 事務局長兼任
南里 隆	佐賀県地域交流部 部長
横尾 俊彦	佐賀県市長会 理事
伊東 健吾	佐賀県町村会 理事
古園 裕久	佐賀県商工会議所連合会 専務理事
青木 勝彦	佐賀県教育庁 副教育長
川寄 和正	佐賀玄海漁業協同組合 組合長
江打 正敏	佐賀ユネスコ協会 会長
中尾清一郎	株式会社佐賀新聞社 社長
泉 俊彦	株式会社サガテレビ 会長
中島 章夫	一般社団法人佐賀県観光連盟 専務理事
吉田 健	JETRO 佐賀事務所 所長
大野 博之	特定非営利活動法人地球市民の会 副理事長

歴代理事長

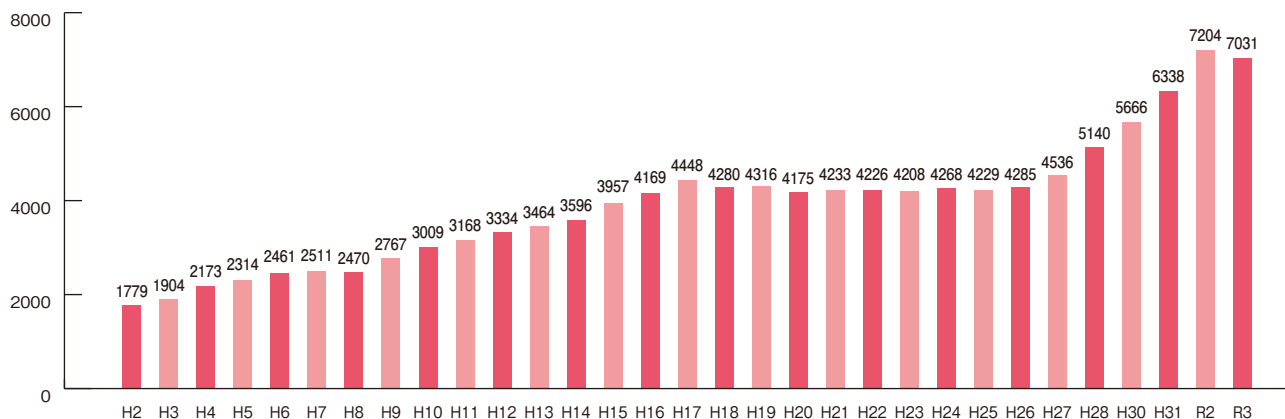
香月 熊雄	平成 2 年 2 月 ～ 平成 3 年 5 月	黒岩 春地	平成 23 年 2 月 ～ 平成 23 年 4 月
井本 勇	平成 3 年 5 月 ～ 平成 15 年 6 月	飛石 昇	平成 23 年 4 月 ～ 平成 24 年 6 月
古川 康	平成 15 年 6 月 ～ 平成 18 年 6 月	山口 康郎	平成 24 年 6 月 ～ 平成 26 年 5 月
川崎 俊広	平成 18 年 6 月 ～ 平成 19 年 6 月	黒岩 春地	平成 26 年 5 月 ～ 平成 27 年 6 月
城野 正則	平成 19 年 6 月 ～ 平成 21 年 6 月	坂井 浩毅	平成 27 年 6 月 ～ 平成 30 年 10 月
小池 信之	平成 21 年 6 月 ～ 平成 23 年 2 月	黒岩 春地	平成 30 年 10 月 ～

外国人住民の推移

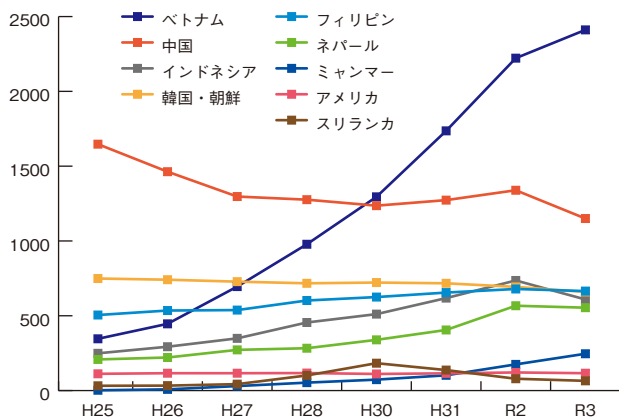
参考：佐賀県国際課 佐賀県内の在留外国人数

■佐賀県内外国人住民数の推移

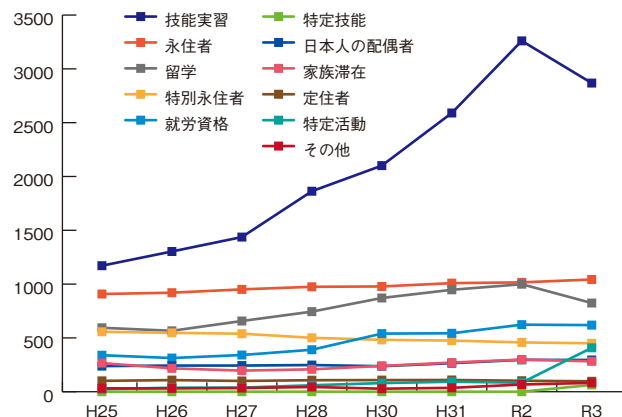
※各年1月1日現在（H28まで12月末日現在）（人）
※2021（R3）年については速報値



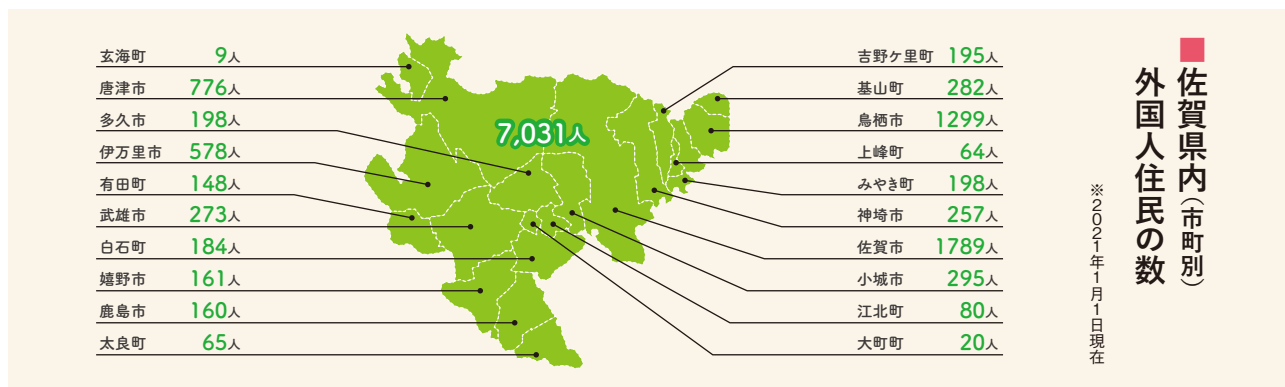
■主な国籍別推移



■主な在留資格別推移



- ・平成27年以降大きく増加（H26→H27:251人増、H27→H28:604人増）特に平成28年には外国人数の伸び率が全国1位に。
- ・国籍別では、平成28年までは中国が最も多く、次いで韓国・朝鮮の順だったが、平成28年にはじめてベトナムが韓国・朝鮮を上回り、その翌年からは1位が続いている。
- ・在留資格別では技能実習が大きく増加、留学や就労も増加傾向であったが、新型コロナウイルスによる入国制限に伴い、令和3年の数は減少している。



佐賀県国際交流協会 30年のあゆみ〈1990-1999〉

世界や日本の動き

- ソ連で一党独裁放棄、混合経済移行など提案・
- アフリカ最後の植民地ナミビア独立宣言・
- イラン大地震・
- 国連がイラク制裁決議・
- 韓ソ国交樹立・
- 東西ドイツ統一、ドイツ連邦共和国成立・

- 多国籍軍イラク空爆開始（湾岸戦争）・
- 湾岸戦争でアメリカが勝利宣言・
- 欧州復興開発銀行設立・
- 雲仙普賢岳で大規模火砕流発生・
- フィリピンピナツボ火山大噴火・
- 南アフリカがアパルトヘイト終結宣言・
- ワルシャワ条約機構解体・
- アメリカとロシアが第1次戦略兵器削減条約（START I）調印・
- ソ連消滅宣言・

- 北朝鮮 IAEA 検査協定調印・
- EC 加盟 12ヶ国マーストリヒト条約正式調印・
- 国連カンボジア暫定行政機構発足・
- ロサンゼルスで黒人暴動・
- ブラジルのリオデジャネイロで国連環境会議（地球環境サミット）・
- PKO 協力法成立・
- バルセロナオリンピック・
- 中韓国交樹立・
- 国連安保理、ソマリアに多国籍軍派遣決定・

- チェコスロバキア連邦がチェコ共和国とスロバキア共和国に分離・
- EC の 12 カ国市場統合・
- アメリカとロシアが第2次戦略兵器削減条約（START II）調印・
- 東京サミット・
- 北海道南西沖地震による奥尻島大津波が発生・
- イスラエルと PLO がワシントンでパレスチナ暫定地域宣言・
- マーストリヒト条約発効・
- ウルグアイ・ラウンド（新多角的貿易交渉）が最終合意・

- 北米自由貿易協定（NAFTA）・
- ロサンゼルスで大地震・
- リレハンメル冬季オリンピック・
- ルワンダで大統領専用機墜落（ルワンダ内戦）・
- ロシア軍がチェチェン共和国に侵攻・

佐賀県国際交流協会の動き

平成2年（1990）

- 国際交流協会設立（H2.02.07）
- 設立記念シンポジウム
- 日本語教室開催
- 国際理解講師派遣事業 開始
- ディスカバー佐賀（県内名所・伝統まつりへの参加）
- SPIRA 国際交流塾 開始
- 国際交流推進フォーラムを県内各地で開催（武雄市、鳥栖市、多久市、伊万里市、唐津市）



▲ディスカバー佐賀

平成3年（1991）

- 国際交流助成事業 開始
- 設立 1 周年記念講演会
- 「国際交流から版」発行
- 国際交流サロン「アジアをもっと知ろう」
- 留学生奨学金支給 開始
- ふるさと文化講座（書道・華道・茶会）
- 国際ユースサミット in SAGA
- 国際協力推進事業（青年海外協力隊の帰国報告会、交流会、隊員との懇談会）



▲国際ユースサミット in SAGA

平成4年（1992）

- 「SAGA LIFE SAVER」（生活マニュアル英語版）作成
- 南米移住高齢者の里帰り事業
- 国際理解啓発講演会
- 日中韓ユースフォーラム 開始
- 国際交流推進ミニフォーラム
- 民間国際交流団体名簿作成
- ディスカバーライフ事業（稲刈り体験）



▲国際交流推進ミニフォーラム

平成5年（1993）

- ワールド・パートナーシップ・フォーラム佐賀 共催
- 日本語スピーチコンテスト 共催
- 外国語によるテレホンサービス
- 留学生支援事業（伝統芸能鑑賞会）
- ※佐賀大学留学生会、佐賀大学と共同実施
- 国際協力推進事業「青年海外協力隊を知る一日」



▲国際協力推進事業
「青年海外協力隊を知る一日」

平成6年（1994）

- 賛助会員の集い 開始
- 国際交流スクウェア イン 佐賀（国際交流団体連絡会）
- 地域ふれあい交流事業（地域住民との交流）



▲賛助会員の集い

世界や日本の動き

阪神・淡路大震災・
GATT に代わり世界貿易機構 (WTO) が発足・
日米韓、朝鮮半島エネルギー開発機構 (KEDO) 設立協定調印・
中国が地下核実験・
サハリン沖地震・
アメリカ・ベトナム国交樹立・
ボスニア和平協定調印・

フランスがフランス領ポリネシアのトゥアモトゥ島ファンガタワ環礁で地下核実験・
中国雲南省北西部で大地震・
初のアジア・ヨーロッパ首脳会議・
モンゴルで大規模な草原火災・
中国南部 4 省広域にわたり大洪水・
アトランタオリンピック・
チェチェン共和国独立派とロシア軍が停戦合意・
国連総会特別本会議が CTBT (包括的核実験禁止条約) 最終案採択・
カンボジアのメコン川流域大洪水・
ペルーの首都リマで武装ゲリラが日本大使公邸占拠・

化学兵器使用禁止条約発効・
イラン東部地震・
消費税 5% に・
香港返還で 1 国 2 制度の特別区誕生・
ASEAN にミャンマー、ラオス正式加盟・
アムステルダム条約に EU15 各国調印・
温暖化防止京都会議・

EU 特別首脳会議・
インド核実験・
パキスタン核実験・
アフガニスタン大地震・
パプアニューギニア大津波・

コロンビア中西部で大地震・ 欧州単一通貨ユーロが 11 各国に導入・
トルコ共和国大地震・ 対人地雷禁止条約発効・
台湾大地震・ カンボジアが ASEAN に加盟・
ユーゴスラビア和平受諾・
中国建国 50 周年式典・
マカオ返還で 1 国 2 制度の特別区誕生・

佐賀県国際交流協会の動き

平成 7 年 (1995)

- ・国際交流ボランティア登録制度事業 開始
(ボランティア研修会 実施)
- ・外国人のための生活情報ハンドブック作成
- ・ワールド・プラザの運営管理事業
- ・国際交流団体ネットワーク事業 開始
- ・留学生とともに佐賀での生活を語る会



▲国際交流ボランティア研修会

平成 8 年 (1996)

- ・アジアまつり in さが
- ・日本語指導ボランティア研修会 開始
- ・アジアユースフォーラム 開始
- ・自治体職員協力交流事業 開始
(韓国全羅南道地方自治体職員 1 名受入れ)



▲アジアユースフォーラム

平成 9 年 (1997)

- ・アジア空間 Saga ～佐賀とアジアの 1 か月～ 開始
- ・県内在住外国人に対し日本語教室に
子どもコース 1 クラス増設
- ・生活情報ハンドブック「ライフセーバー」中国語・韓国語作成
- ・スポーツ交流事業 開催 (年間 28 回実施、参加者 971 人)
- ・「国際理解講座」ティータイムトーク
(韓国・ベトナム・中国)
- ・在外県人会青年交流事業 開始



▲在外県人会青年交流事業

平成 10 年 (1998)

- ・アジア空間 Saga ～佐賀とアジアの 1 か月～
- ・国際交流ボランティア研修会
(日本語指導ボランティア養成講座 6 回シリーズ
及び佐賀の文化を知ろう講座)
- ・留学生等地域交流推進事業 開始
- ・外国人との交流事業 開始
- ・スポーツ交流事業 開催 (年間 30 回実施、参加者 1183 人)



▲スポーツ交流事業

平成 11 年 (1999)

- ・在住外国人生活相談コーナー・相談専用回線 設置
- ・外国人生活支援ネットワーク会議
- ・アジア空間 Saga ～佐賀とアジアの 1 か月～
- ・創立 10 周年記念事業
- ・国連講演会「アジアにおける日本の国際貢献」



▲創立 10 周年記念事業

佐賀県国際交流協会 30年のあゆみ〈2000-2009〉

世界や日本の動き

九州・沖縄サミット・
シドニーオリンピック・

アメリカ同時多発テロ・
中国の WTO 加盟と新ラウンド発足・

「ユーロ」の通貨流通開始・
日韓共催サッカーワールドカップ・
初の日朝首脳会談・
北朝鮮拉致被害者 5 人が帰国・
バリ島で爆弾テロ・
モスクワで劇場占拠事件・
中国広東省で新型肺炎 (SARS) の初の感染者・

新型肺炎 (SARS) が世界的流行・
米英軍イラク戦争を開始・
有事関連法が成立・
イラク復興支援特別措置法が成立・
ジャカルタなどで爆弾テロ続発・
邦国外交官 2 人がイラクで殺害・

スペインで列車同時爆破テロ・
EU25 カ国に拡大・
再度の小泉首相訪朝により、帰国していた拉致被害者の夫や子どもが日本へ帰国・
アテネオリンピック・
インドネシア・スマトラ島沖地震による津波が発生・

佐賀県国際交流協会の動き

平成 12 年 (2000)

- ・ボランティアのための中国語会話入門講座
- ・アジア空間 Saga ～佐賀とアジアの 1 か月～
- ・外国人との交流事業
(エブロン交流会、おりがみ交流会、大正琴とお茶の会)



▲外国人との交流事業 (大正琴とお茶の会)

平成 13 年 (2001)

- ・在住外国人との懇談会 (佐賀市)
- ・情報収集提供高度化事業 (日本語版 HP 開設) 開始
- ・21 世紀佐賀国際交流フェア
- ・県内の外国語対応可能な医療機関のリスト作成
- ・在住外国人法律相談 (佐賀市)
- ・在住外国人生活巡回相談 (鳥栖市)



▲21 世紀佐賀国際交流フェア

平成 14 年 (2002)

- ・地域日本語支援コーディネーター研修
- ・在住外国人との懇談会を 4 回開催
(佐賀市、鳥栖市、伊万里市、唐津市)
- ・在住外国人のための日本文化研修事業 開始
- ・情報収集提供高度化事業 英語版 HP 追加
- ・ワークショップ「多文化共生社会と私達の役割」



▲ワークショップ
「多文化共生社会と私達の役割」

平成 15 年 (2003)

- ・国際交流・協力情報誌「Hello Saga」第 1 号発行
(旧名称：かわら版)
- ・さが国際交流・協力フェスタ 開始 (アバンセ)
- ・ボランティアによる生活・地域情報誌
「ねっとわーくさが」の作成・発行開始
※英、中、韓 (日本語併記) (発行回数 3 回)
- ・スタディーツアー開始 (タイ)
- ・情報収集提供高度化事業 中国語版 HP 追加



▲生活・地域情報誌「ねっとわーく さが」

平成 16 年 (2004)

- ・情報収集提供高度化事業 韓国語版 HP 追加
- ・スタディーツアー (カンボジア)
- ・国際交流バスツアー～ミニ門松づくりと植林体験～
- ・ボランティア研修「災害時の在住外国人支援活動について」
- ・国際協力・貢献ボランティア研修会 (全 3 回)



▲バスツアー～ミニ門松づくりと植林体験～

世界や日本の動き

京都議定書が発効・
国際博覧会「愛・地球博（愛知万博）」開幕・
ロンドン同時多発テロ・
大型ハリケーン・カトリナ、アメリカに上陸・
イスラエル軍がガザ地区から撤退・
パキスタン北部で地震・
中国で鳥インフルエンザ死者・

インドネシア・ジャワ島中部で大地震・
北朝鮮ミサイル連続発射・
北朝鮮初の地下核実験・
6 カ国協議再開・

EU27 カ国に拡大・
防衛省発足・

中国・四川大地震発生・
北海道・洞爺湖サミット・
北京オリンピック・
米証券大手リーマン・ブラザーズ経営破綻・

新型 H1N1 インフルエンザがメキシコを基点に世界的に流行を始める・
民主党政権発足・

佐賀県国際交流協会の動き

平成 17 年（2005）

- ・さが国際ユースフォーラム in 波戸岬
- ・スタディーツアー（ミャンマー）
- ・外国人相談件数が 240 件／年となる
- ・ボランティア全体研修会
- ・国際交流・協力パワーアップセミナー



▲スタディーツアー（ミャンマー）

平成 18 年（2006）

- ・スタディーツアー（タイ）
- ・海外で学ぶ日本の子ども達 秋季講習会
- ・佐賀県私費海外留学生奨学金給付事業
- ・国際協力・貢献ボランティア研修会（2 回）



▲スタディーツアー（タイ）

平成 19 年（2007）

- ・地域コミュニティづくりサポート事業 開始
- ・生活日本語の習得支援
- ・日本語ボランティア養成講座
- ・メディカルインタープリター（医療通訳者）養成講座 開始
入門編（英語・中国語）
- ・インターンシップ受入開始
- ・多文化共生推進会議 開始



▲医療通訳者養成講座

平成 20 年（2008）

- ・国際交流ボランティア研修会（体験型ホストファミリー研修会
「なれる？なりたい！サガンファミリー」）開始
- ・医療通訳養成講座（英語、中国語 全 12 回）
- ・国際交流ボランティア全体研修会
「災害時の外国人支援について考える」
- ・ランチタイムセミナー in English 開始
- ・料理交流会 開始（メキシコ料理）



▲体験型ホストファミリー研修会

平成 21 年（2009）

- ・日本語支援ボランティア養成講座 ブラッシュアップ編 開始
- ・医療通訳ボランティア研修会
- ・多文化共生推進会議 講演会「みんなに“やさしい日本語”
って何だろう？～災害の取り組みから考える～」
- ・料理交流会（ネパール・スリランカ料理）
- ・さが国際ふれあいフェスタ 2009
- ・見て！聞いて！学ぼう！いろいろな国の歌・遊び



▲料理交流会（ネパール・スリランカ料理）

佐賀県国際交流協会 30年のあゆみ〈2010-2020〉

世界や日本の動き

上海国際博覧会開幕・
尖閣諸島中国漁船衝突事件発生・

東日本大震災発生・
国際テロ組織アルカイダの首領ビン・ラディンが米軍に殺害される・
タイ東部で大洪水発生・
なでしこジャパンがサッカー W 杯優勝・
国内で原発停止相次ぎ「計画停電」を実施・

韓国大統領が竹島に上陸・
日本政府が尖閣諸島を国有化・
自由民主党政権復帰・

日本が環太平洋連携協定（TPP）交渉に参加・
2020 年夏季オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定・
中国が尖閣諸島を含む東シナ海に「防空識別圏」を設定・

STAP 細胞論文に捏造や改ざんが発覚・
ウクライナ危機・
イスラム過激派組織「イスラム国」樹立・
日本政府が集団的自衛権の行使を容認する憲法解釈の変更を閣議決定・
御嶽山が噴火・

佐賀県国際交流協会の動き

平成 22 年（2010）

- ・日本語グループ支援事業 開始（6 グループ）
- ・さが国際ふれあいフェスタ 2010 開催
- ・料理交流会（ベトナム・韓国料理）



▲さが国際ふれあいフェスタ 2010 開催

平成 23 年（2011）

- ・学校通訳サポーター研修会（全 3 回）
- ・外国人住民支援のためのボランティア通訳研修会（全 4 回）
- ・佐賀県海外使節団（大学生）派遣事業費補助 開始
- ・多文化セミナー（全 6 回）
- ・マルチリンガル養成講座
（英語で学ぶハングル入門を初トライ）



▲外国人住民支援のための
ボランティア通訳研修会

平成 24 年（2012）

- ・多文化共生推進会議 講演会「多文化防災セミナー」
- ・日本文化・歴史紹介ボランティア研修会 開始
- ・交換留学高校生日本語集中講座 開始（6 日間）
- ・グローバルキッズ～英語で遊ぼう～
- ・マルチリンガル養成講座
（英語で学ぶイタリア・フランス語を開始）



▲多文化共生推進会議 講演会
「多文化防災セミナー」

平成 25 年（2013）

- ・公益財団法人となる
- ・ボランティア通訳研修会～観光ボランティア通訳～（全 4 回）、
～災害ボランティア通訳～（全 3 回）
- ・日本語教室立ち上げ“後押し”講座
- ・「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
（文化庁委託事業）
- ・英語でチャレンジ!? 防災キャンプ@本庄公民館
- ・外国人のための健康相談（年 6 回）開始
- ・外国籍児童支援 開始
- ・あそまなぶ～ Feel the world!! ～ 開始



▲英語でチャレンジ!? 防災キャンプ
@本庄公民館

平成 26 年（2014）

- ・事務所移転（佐賀県庁から佐賀商工ビルへ）
- ・ニュースで学ぶ時事英会話（全 12 回）
- ・（著名人による）多文化共生・国際理解セミナー
（全 4 回）開始
- ・体で覚える英会話～ヨガ編～（全 12 回× 2）
- ・通訳ボランティア研修会 イスラムの文化を知ろう



▲通訳ボランティア研修会
イスラムの文化を知ろう

世界や日本の動き

世界各地でイスラム過激派のテロが多発（～12月）・
過激派組織「イスラム国」が日本人2人を人質に取り殺害・
米国とキューバが54年ぶりに国交回復・
集団的自衛権の行使を可能にする安全保障関連法が成立・
環太平洋連携協定（TPP）交渉が大筋合意・
COP21で地球温暖化対策の新たな枠組み「パリ協定」を採択・

朝鮮が1月、9月に核実験を実施・
日銀が国内で初めてマイナス金利を導入・
熊本地震発生・

過激派組織「イスラム国」の拠点陥落、事実上の崩壊・
北朝鮮が8月、9月、11月に弾道ミサイルを発射・

南北首脳が朝鮮半島の非核化に合意・
米朝がシンガポールで史上初の首脳会議・
韓国大法院による元徴用工訴訟判決・

京都アニメーション放火殺人事件発生・ 米朝がベトナムで首脳会議・
ラグビーワールドカップ2019日本大会・ 新元号が「令和」に決定・
消費税10%スタート・ 今上天皇陛下即位・
フランスのノートルダム大聖堂で火災・ G20大阪サミット
・ 香港で反政府抗議活動・
在住外国人に関わる法律や制度が施行・ 創設された・
（日本語教育の推進に関する法律、在留資格「特定技能」の創設）

イギリスがEU離脱・
新型コロナウイルス感染症が世界各地に広がる・
新型コロナウイルス感染症で日本政府が緊急事態宣言を発令・
中国が香港国家安全法案を可決・

佐賀県国際交流協会の動き

平成27年（2015）

- ・ 子ども支援ボランティア養成・派遣事業開始
- ・ 医療通訳サポーター養成・派遣 韓国語増設
- ・ 多文化共生推進ワークショップ（日本財団助成事業）
- ・ 映画で観る世界『Hafu/ハーフ』『世界の果ての通学路』上映会&トークライブ
- ・ ネパール地震被害者支援チャリティイベント
- ・ アフター5、おしゃべりカフェ交流セミナー開始
- ・ Let's go abroad! 留学・ワーホリ交流会
（留学・ワーキングホリデー相談セミナー）



▲アフター5、おしゃべりカフェ交流セミナー

平成28年（2016）

- ・ 第1回日本語スピーチコンテスト
- ・ 韓国を知るセミナー
- ・ 国際料理交流会 カンボジア・パレスチナ cooking party
- ・ 熊本地震外国人支援活動
- ・ 歴史文化ボランティア研修会
映画「佐賀のがばいばあちゃん」から見る佐賀の方言文化



▲第1回日本語スピーチコンテスト開催

平成29年（2017）

- ・ 外国人のためのすぐに役立つ体験型防災セミナー開始
- ・ 留学生のための就活セミナー / 留学生・企業交流会
- ・ 日本語能力試験N2合格を目指す日本語講座
- ・ 生活ガイドを10言語で作成
- ・ オランダティータイムセミナー
～オランダの文化と佐賀のつながりを学ぼう♪～
- ・ 国立病院機構嬉野医療センターにて国際理解講座実施
（インドネシア講師派遣）



▲外国人のためのすぐに役立つ体験型防災セミナー

平成30年（2018）

- ・ SPIRA 多文化共生ラジオ放送開始
- ・ SPIRA「やさしい日本語」啓発セミナー開始
- ・ 技能実習制度に関するセミナー
- ・ 唐津市にて「さが国際フェスタ」を開催
- ・ フォトコンテスト開始
- ・ 多文化防災セミナー開始
- ・ 佐賀市防災士会と外国人住民の意見交換会



▲SPIRA 多文化共生ラジオ放送開始

平成31年／令和1年（2019）

- ・ さが多文化共生センタースタート
- ・ 「外国人とともに取り組む!災害対応ガイドブック」作成
- ・ 令和元年8月九州北部豪雨
災害多言語支援センター設置・運営（8月28日～）
- ・ 伊万里市にて「さが国際フェスタ」を開催



▲さが多文化共生センタースタート

令和2年（2020）

- ・ 創立30周年記念式典
- ・ さが多文化共生センター1周年（相談件数371件／年）
- ・ 佐賀県職員功績顕著表彰（地域交流部長表彰）受賞
「多言語による外国人住民への特別定額給付金の申請支援」
- ・ 神埼市にて「さが国際フェスタ」を開催（1400人が来場）
- ・ 令和2年台風10号災害多言語支援センター設置・運営
（9月6日～）
- ・ SPIRA SMILE PROJECT 多言語によるメッセージビデオの配信



▲佐賀県職員功績顕著表彰
（地域交流部長表彰）受賞